

## 平成29年度 第2回 大口町子ども・子育て会議 議事概要

日時：平成29年12月19日（月）13：15～14：20

場所：大口町健康文化センター 多目的室

### 1. あいさつ

<藤原委員長>

- 子どもの睡眠について、大きな問題となっている。夜10時以降に就寝し、朝は早く起きる「遅寝短睡眠」の2・3歳児の割合が、70%近くになってきている。これが、子どもの発達に、大きな問題を引き起こしているようだ。
- 例えば小1プロブレム。授業についていけない、授業に集中できないという問題は、睡眠が大きく関係していると言われ、また、ADHDや自閉スペクトラム症などの発達障害は、睡眠障害も要因となるとのこと。
- 家庭での睡眠改善が望まれるが、なかなか取り組まれていない。それに対し、地域をあげて取り組んでいるのが福井県若狭町。町ぐるみで子どもたちの睡眠を守ろうと取り組んでいる。子どもを守る観点から、子ども子育て支援事業計画が策定されていることを鑑みれば、避けては通れない問題である。関係各所では、深く問題をとらえていただけるようお願いしたい。

<健康福祉部長>

- 委員に対する出席に際してのお礼。
- 町の北部地域における大規模な宅地開発もあり、本町の児童数は増加傾向にある。また、町の施策として企業誘致にも積極的に取り組んでいることも相まって、児童数はまだまだ増えていくものと思われる。
- 保護者の働き方、家族形態が多種多様化していく中で、保育・子育てニーズはますます増えていくものと思われる。
- 新安倍政権においては、消費税増税分を子育て支援に充てるということで、幼児教育の無償化が具体化されてくる見通しであり、数年内には児童福祉を取り巻く環境が大きく変わると考えられる。
- そのような中において、当会議・計画はますます重要な位置付けになると考える。各委員におかれては、今後とも本町の児童福祉行政に対するご指導ご鞭撻と、当計画の慎重審議をお願いしたい。

### 2. 協議事項

#### (1) 大口町子ども・子育て支援事業計画改定版（素案）について

ア 表紙～2-5 教育・保育の見込みと確保方策（p1～6）

事務局から資料「大口町子ども・子育て支援事業計画別冊（素案）平成30年3月改定」p1～6 を説明

<会長>

- この件について、ご意見はあるか。

<事務局>

- 今日現在の平成30年度保育園入園申込者数について、報告をさせていただく。  
定員660人に対し、4月1日入園希望者が597人（在園児を含む）、途中入園希望者を含めると626人であり、定員内にある状況。しかし、現在も申込みを受付けている最中であるため、多少の増加を見込んでいる。

<会長>

- 幼稚園の状況はどうか。

<委員>

- 今年度につき、来年度も両幼稚園とも定員を超過する見込み。
- 先日、連盟会議の場において、保育士不足が話題となった。保育園も同様であると思うが、保育士の確保が喫緊の課題であり、賃金アップや労働条件の改善が必要となる。

<事務局>

- 公立・私立保育園においてもまさに同様の状況にある。

<会長>

- 養成校においても、資格・免許を取得してもその方面に進まない生徒も多くなっている。一度の実習で心が折れてしまうような生徒も多く、双方ともに苦慮している問題である。
- 他に質問等はあるか。  
(発言する者なし)
- 無いようなので、次の説明へ。

イ 2-6 地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策（p7～19）

事務局から資料「大口町子ども・子育て支援事業計画別冊（素案）平成30年3月改定」p7～19を説明

<会長>

- この件について、ご意見はあるか。

<事務局>

- 昨年度中に、病児保育の実施機関が本町から隣接市町に移設した。その影響もあり、昨年度中の利用者は減少傾向にあったが、今年度の利用者は幾分か増加傾向にある。
- 平成30年度放課後児童クラブ利用意向調査について、報告をさせていただく。  
定員235人に対し、204人という状況。しかし、夏休み等の長期休業期間に預けるケースを含めると定員に近い状況になると予測している。
- 10月に本格運用を開始した子育て支援センターについては、町内外問わず多くの方に利用いただいている。平均値として1日あたり20組ほど。多くの方に利用いただけていることから、上々の滑り出しと感じている。

<委員>

- 私立保育園による一時預かり事業については、年度当初は利用者も比較的少な

いが、9月ごろから急増し、申込み開始とともに予約で定員が埋まる状況にある。  
申込状況や利用者の状況によっては、定員の弾力化を実施している。

<会長>

○利用者の声はどうか。

<委員>

○園庭開放に参加していた家庭が保育園を経験させたいと預けられる場合や、家事等で少しの時間子どもと離れたいという場合など、利用者にはありがたいという声をいただいている。

<会長>

○利用者のその後の就園状況はどうか。

<委員>

○多くは保育園に就園されるが、1～2割ほどは幼稚園に就園される。

<会長>

○増設された放課後児童クラブについてはどうか。

<委員>

○全校児童600人のうち、80人ほどが利用している。増設により環境も良くなり、児童数が増加しても対応できるのではないかと感じている。

<会長>

○大口町においては、保育園でけん玉に力を入れて取り組まれていると記憶している。児童クラブでは引き継いでいるか。

<事務局>

○南児童クラブにおいては、毎月けん玉検定を実施し、児童とともに厚生員も取り組んでいる。他の児童クラブでは、特別な取り組みはないが、常にけん玉が設置してある。児童が手にすれば、厚生員も一緒になって取り組んでいる。

<会長>

○地域文化の育成は、児童の健全育成に必要不可欠であると感じる。

○他に質問等はあるか。

(発言する者なし)

○本日の協議事項について、承認いただけるか。

(異議なしと発言する者あり)

○最後の議題へ。

### 3. その他

#### (1) 今後のスケジュール

<事務局>

○資料「大口町子ども・子育て支援事業計画中間見直しスケジュール(案)」に基づき説明。